



一関の春の風物詩「第9回 せんまやひなまつり」(同実行委員会主催)は2月11日に始まりました。今年も色鮮やかな段飾りやつるし飾りが来場者の目を楽しませています。

メイン会場は、大正ロマン漂う千厩酒のくら交流施設。江戸時代から現代までの段飾りひな人形23組や千厩地域の女性たちが作ったつるしびなが飾られています。古布を再利用して作られた飾りびなは数十種類。それぞれのモチーフには、子や孫の無病息災、健康、良縁などの願いや祈りが込められています。

つるしびなは、蔵サポーターの会の15人が1年かけて制作したもの。同会の昆野洋子会長は「今年のテーマは

『桜』と干支の『猿』。一生懸命作ったつるしびなで、一足早い春を感じてください」とほほ笑みます。一つ一つ丁寧に作られた桜の花は1万個以上。ため息が漏れるほどの美しさです。一体一体に個性があります。猿は120体。愛らしい表情に、笑みがこぼれます。

商店街では、参加する52店舗が趣向を凝らした段飾りやつるし飾りを展示。飲食店では、ひなまつり限定メニューを楽しめます。ひなまつりを五感で感じられるおもてなしがいっぱいあります。

女性ならではの感性や心遣いがつまった「せんまやひなまつり」は3月3日まで開催。優雅な「桃の節句」を千厩で体感してください。

1_千厩酒のくら交流施設では、桜を模したひなかざりが来場客を出迎える／
2_江戸時代後期の古今雛。それぞれの時代のひな人形のつくりや大きさの違いも見どころ／3,6,10,12_会場を華やかに彩る豪華絢爛な打掛／4_つるし飾りの七宝鞠(ひちほうまり)は七宝の形を表す縁起物。無限に続く円満や財産への願いが込められている／5_江戸中期の次郎左衛門雛。丸顔の顔つきが特徴的／7_椿のひなかざり。優雅で美しい女性に育つようにと願いが込められている／8_商店街の各店舗でも、段飾りやつるし飾りを展示／9,16_あてやかな空間が来場者の笑顔を誘う／11,15_色彩豊かなひな人形の数々。お気に入りの一体を見つけるのも楽しみ／13_会場には23組の段飾りひな人形がずらり／14_120体の猿には、病・災いが去るという意味が込められている



せんまやひなまつり

はんなりと、ゆったりと

一針一針に願い込め、作った桜が花開く。
ロマン漂う蔵の街、ひな飾りがはんなり彩る。
吉里の歴史・文化をゆっくりと、五感で味わうひなまつり。